

地方で暮らし 地方を生かす 地域貢献診断士のリアル



第1章

釜石に根ざして生きる 地域と人をつなぐハブになりたい

水島 壽人

釜石市起業型地域おこし協力隊／中小企業診断士

現在、私は岩手県釜石市を拠点に活動しています。さまざまな出会いや偶然が重なって、神奈川県から釜石に移住し、釜石という地域で生きていくことを選択しました。



筆者近影

1 2011年が人生のパラダイムシフトに

神奈川県鎌倉市出身、新卒で東京の印刷会社に就職し、それまで生活や仕事の基盤は常に首都圏にありました。元々、東北とは縁もゆかりもありませんでした。

大きな転機が訪れたのは、2011年のことです。当時、勤続20年を迎えていた私は、今後のキャリアについて方向性が見えず、悩みを抱えていた時

期でもあり、何かを変えなければいけないという危機感を抱いていました。

使命感に駆られたというよりも、「自分自身を変えたい」という思いから、一度きりのつもりで同年4月末、東日本大震災の被災地である岩手県陸前高田市・釜石市・大槌町を復興支援のボランティアとして訪れました。ところが、想像を遥かに超えた現地の惨状を目のあたりにしたことで、一度きりという思いはどこかへ吹き飛び、その後、さまざまな形で復興支援活動を継続していくことになります。

その年の夏からは、中小企業診断士の資格取得を目指した学習も始めました。印刷業界、出版業界でのコミュニティしかなかった私にとって、バックボーンの異なる多様な方々が参加していた復興支援のボランティアや診断士受験生との交流は、非常に新鮮でした。多くの刺激をいただき、その後の行動変容につながりました。後から振り返ると、2011年は自分の価値観や行動が大きく変わるきっかけの年、パラダイムシフトとなりました。

2 釜石と一緒に仕事しましょう

診断士資格を目指して学習を始めた当初は、後々、診断士資格と復興支援活動がリンクして人

生が大きく変わることになるとは夢にも思いませんでした。2016年に診断士試験に合格した時点でも、診断士として独立することは念頭にありませんでした。資格取得後、岩手県や福島県の生産者の取材・執筆や、宮城県石巻市での創業塾の講師の仕事などを通じ、少しずつ診断士として東北に関わる機会に恵まれるようになりました。

復興支援活動を続けていく中で、知らず知らずのうちに東北の自治体関係者、事業者、生産者、支援者とのネットワークが構築され、いつか東北の人たちと一緒に仕事をしたいという想いが日を追うごとに高まっていきました。そんな想いを抑えきれなくなって独立を決めたのが、2019年夏のことです。

このタイミングで、「水島さん、会社を辞めるなら釜石と一緒に仕事しませんか」と真っ先に声をかけてくださったのが、今、釜石で共に仕事をしている仲間たちでした。独立することを決めたものの、具体的な仕事は何ひとつ決まっていなかった私にとって、まさに「渡りに船」。2019年11月から翌2020年3月までの半年間、釜石に通って、復興庁の「企業間専門人材派遣支援モデル事業」のコーディネーターとして、三陸沿岸地域の企業の採用支援に携わりました。この仕事を通じて、地域の人口減少や高齢化の加速に伴う慢性的な人員不足と従業員の高齢化、若手従業員の育成について体系的な仕組みがないことなど、地域企業が抱える課題や問題点に直面しました。

その一方で、三陸沿岸の企業の経営者には、自社のことだけでなく、地域のことを自分事として背負い、地域の復興に力を尽くされている方が多いことにも気づきました。「釜石をより良い地域にしたい」という思いを持った魅力的な経営者との出会いに恵まれ、もう少し腰を据えて、釜石の皆さんと一緒に地域課題に向き合いたいという思いが強くなっていきました。

そして、2020年6月、総務省の「地域おこし協力隊」制度を活用し、釜石市へ移住しました。

3 「鉄と魚とラグビーのまち」釜石の魅力

釜石市は岩手県沿岸南部に位置し、三陸の豊かな海と山々に囲まれた町です。



釜石大観音と釜石湾

明治以降、鉄鋼業を基幹産業として栄え、また、ラグビーの「不屈の精神」が文化として根づいている地域でもあります。釜石は、度重なる災害や戦災を経験していますが、その都度、市民・企業・行政が一体となって復興を果たしてきました。その背景には、社会・経済情勢の大きな変化を容れ、自然との共生を図る釜石人の「変化に対して開かれている寛容な気質」があると言われています。

そんな風土と気質から、「よそ者」である私のことも優しく受け入れてくれました。居酒屋に行くと、経営者の皆さんと一緒にいる機会も多く、コンサルタントとクライアントというよりは、仲間のような、家族のような、そんな関係性を築いています。大都市圏に比べると、経営者との距離が近いことも地域の特徴なのかもしれません。

現在の釜石市は鉄鋼業の衰退に伴い、急激な人口減と少子高齢化が進み、震災がさまざまな潜在的な課題を浮き彫りにした「課題先進地域」です。震災後、釜石市外から多くのUIターン人材が地域に入り、復興やまちづくりにかかわる活動を継続しています。ふるさとを思い、震災から不屈の